

EVバッテリー資源循環流通システム確立に向けた実証事業

協議会名:GBNet福岡 循環流通実証事業協議会

協議会構成員
福岡県、(公財)福岡県リサイクル総合研究事業化センター、
西日本オートリサイクル(株)、矢崎総業(株)、
ロジスティード(株)、ロジスティード九州(株)、
(株)chaintope、(株)サトー

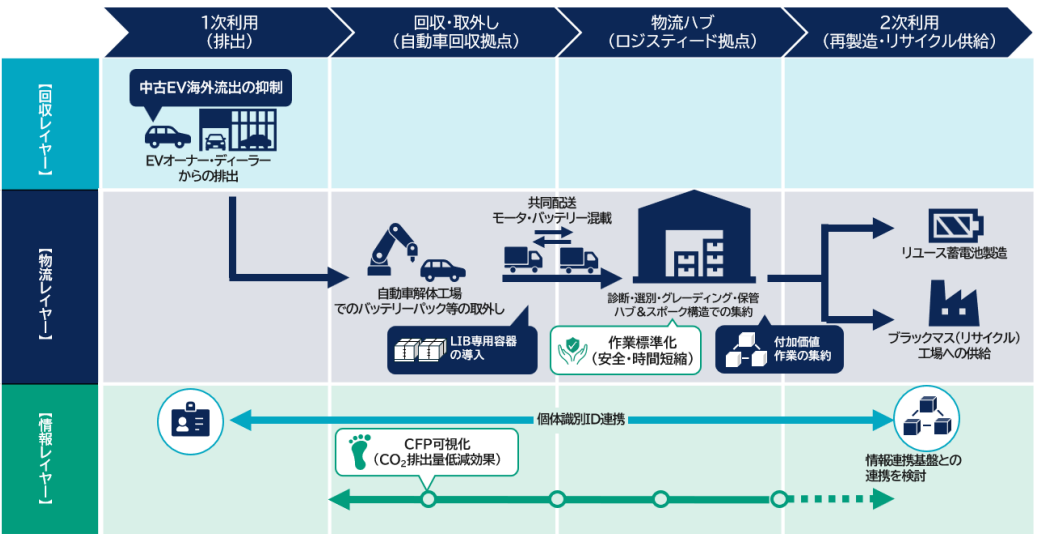
【事業実施背景】
昨今のEV(電気自動車)普及の加速により、使用済EVバッテリーが加速度的に増加すると予測される中、現状、国内の資源循環流通網が未確立であるため、中古EVの約8割が海外へ流出しており、使用済EVバッテリーの資源循環は喫緊の課題。福岡県を中心とする北部九州エリアで、荷主・物流事業者が共同利用できる「物流ハブ拠点」を整備し、物流と情報の両面から生産性向上を図る。

事業内容

Point

・安全かつ効率的な回収システムの確立、物流構造の最適化と再利用流通のサービス構築、情報流通基盤の検討、回収から再利用先までの実物流による効果検証により、生産性向上を図り、経済性と環境負荷低減(CO₂削減)が両立する持続可能な循環流通基盤を確立する。

循環流通基盤全体図



想定事業実施効果

【新たに開拓される市場向け循環物流網の構築】

○2030年には約1,200億円規模に拡大すると予測されるEV電池の資源循環市場において、全国に先駆けて域内流通モデルの構築を目指す。

▼

【循環型流通網の構築がもたらす効果】

- ・海外流出を抑制し、国内の物流基盤を有効活用して国内ビジネスの拡大に寄与。
- ⇒ バッテリー資源循環によるCO₂削減 (カーボンニュートラル実現)
- ⇒ 関連する新産業・ビジネスの創出を促進し、地域経済の活性化に寄与

将来像